



オフィス風景

守秘情報を含むビッグデータに対する 高速言語分析専用装置の試作開発



実施した事業の概要と成果

市場が拡大しているビッグデータ処理に対して、テキストマイニング製品の高速言語分析専用装置を試作開発した。情報漏洩の危険性のあるインターネット経由のデータ転送ではなく、社内で分析処理できる製品の要望に応え、データ絞り込み、要約、分類機能の新技术を導入し、オンプレミス製品として販売できる高速言語分析専用装置の試作開発である。

本試作開発品は、当社のテキストマイニング製品を守秘ビッグデータに対応させた他の商品と差別化された製品であり、設備のみならず技術力・ブランド力等の経営強化に繋がり、競争力強化と販路拡大を目指すものである。



導入設備：高性能サーバ、他に分散処理用に3台導入



導入設備：高速補助記憶装置



製品開発や課題解決の具体的取組み

① データの絞り込み機能の試作開発

ビッグデータから必要データを高速に絞り込むために「特徴語による絞り込み」「不要情報の絞り込み」機能の試作を実施し、実存するビッグデータに対して絞り込み率が百分の一以下になる性能目標が達成された。

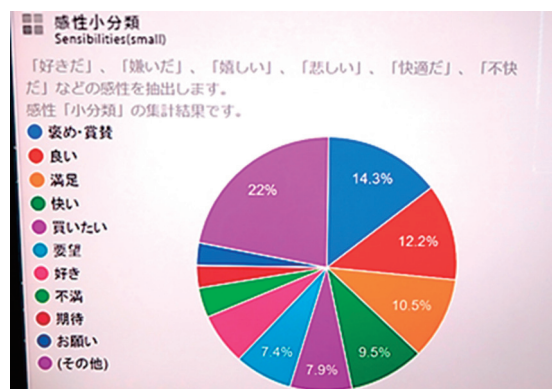
② 格納データの要約機能の試作開発

分析結果をコンパクトに格納するための情報要約（圧縮）機能の試作を実施した。高速言語分析専用装置にて測定・確認した結果、要約（圧縮）率を10%とする目標が達成された。

③ 分析結果の自動分類機能の試作開発

分析で利用した特徴語を含めて、可視化できる自動分類手法の試作を実施した。高速言語分析専用装置にて分類精度を90%とした目標が達成された。

高速言語分析専用装置による約1億文の検証と、実用的な速度で辞書登録変更を可能とする目標達成が確認できた。



口コミ情報の細分化分類事例

事業者	株式会社言語理解研究所
代表者	代表取締役 青江 順一
設立年月	平成14年1月
所在地等	〒770-0813 徳島県徳島市中常三島町 1丁目32番地1 問い合わせ窓口：info@ilu.co.jp https://www.ilu.co.jp/
事業区分	ものづくり技術
資本金額	5,800万円
従業員数	49人
業種	情報サービス業

株式会社言語理解研究所 の

代表取締役

青江 順一



本事業取組みへのきっかけと目的

近年の多種多彩なビッグデータ処理において、個人情報などの守秘情報をインターネット経由でデータ転送することは情報漏洩の危険性があるので、社内で分析処理できるオンプレミス製品に対する要望が高まっている。本事業においてオンプレミス製品として販売できる高速言語分析装置の試作開発を行う。

今後の展望と活動予定

本事業終了から1年間は販売連携企業に試作品を提供し、組込試験により問題点を洗い出す。2年目にこの問題点の改善を図り製品版を完成させる。3年目から製品販売を開始する計画である。